

日本学術会議第71回総会報告(抄)

日本学術会議の第71回総会は昭和51年10月20日～22日に行なわれたが、これに関する広報委員からの報告を抜粋して以下に掲載します。

〔新任紹介〕 田中金次事務局長，大浜忠志総務部長

〔諸報告〕 前総会以後の経過報告と了承，勸告「再び科学研究基本法の制定について」の処理の報告，各部各委員会の報告があり，これに対して，研究費配分のあり方，学術会議主催講演会の意義，国際学術会議の共同主催の組織体制の問題などについて意見の発表があった。

〔提案審議〕 勸告「生態学研究所の設置について」(原案の再検討)，「会員の選挙権及び被選挙権停止の申立てに関する再審査の裁決」及び「当選無効の申立てに関する再審査の裁決」(前者については原決定を一部修正した裁決がなされ，後者は多数の挙手で採択)，「救急医学に関する研究教育制度の確立について(申入れ)」(表現の修正を運営審議会に委ねる採択)，「冷害凶作の構造究明について(要望)」(採択)，「環境影面評価制度の立法化される場合の措置について(申合せ)」(運営審議会に委ねる)など。他に，平和問題研究連絡委員会に分科会

を設置することを申合せた。

〔自由討議〕 次の諸課題について討議が行なわれた。

- (1) 日本学術会議の改革構想策定小委員会の「改革構想の大綱(案)」に関して，本会議の制度的性格の意義と問題点。
- (2) 「第10期活動の取りまとめ」について，長期的な科学技術政策の立案により一層寄与できるものにすべきだとの意見。
- (3) 「科学者憲章(仮称)第一次草案」について，科学研究の限界についての考え方，科学者の義務と責任のあり方，文章表現の方法などに関する意見。
- (4) 婦人研究者の地位の問題について，科学者の地位委員会からの説明があり，制度上の問題と非制度的な問題とを区別して扱うこと，後者については研究者全体の問題との関連を重視すべきこと，また早期に勸告草案を作成し十分検討することなどの意見が述べられた。

〔出席率〕 第1日からそれぞれ88%，90%，86%。

雑 報

オーストラリア日食

1976年10月23日，アフリカ東部で始まり，南インド洋を経てオーストラリア南部を通過し，ニュージージーランドの北の海上で終る皆既日食に際し，次の4機関から総勢10名の観測隊がオーストラリアに派遣された。

1) 緯度観測所

ビクトリア州ポートランドにて，太陽光球縁の二色観測及び太陽赤緯の精密測定

2) 海上保安庁水路部

南オーストラリア州マウント・ガンビアにて，接触時刻及び月の極半径の測定

3) 東京天文台

ビクトリア州ベバリッジにて，彩層—コロナ遷移層の単色直接像及びコロナ単色像の観測

4) 京都大学花山飛騨天文台

南オーストラリア州マウント・ガンビアにて，閃光スペクトル及びコロナ単色像の観測

しかし日食当日の天候に恵まれず，4班ともに観測地上空が厚い雲におおわれて，所期の目的を達成することができなかった。

(守山史生)

学会だより

春季年会について

昭和52年春季年会は5月17日(火)から20日(金)までの4日間，国立科学博物館(東京都台東区上野公園7)講堂で開催の予定です。

今回は一部ダブルセッションを採用しますので講演申込みの際には次の点に留意して下さい。(分野のいかんを問わずダブルセッション希望者はダブルセッション期間中に講演，シングルセッション希望者はシングルセッション期間中に講演)。

1. 原則として1人1回登壇。
2. 講演申込書分類欄の右端に“D”又は“S”を記入して下さい。

“D”: ダブルセッションで講演を希望される方，講演時間は約10分。

“S”: 従来通りのシングルセッションで講演を希望される方，但し講演時間は約7分です。

但し講演プログラム編成に際しては申込者の希望に従って各セッションを編成(ダブルセッションの分け方はプログラム編成委員に一任)しますが必ずしも意に添いかねることも起り得ますのでその節はあしからず御諒承下さい。

従って少人数の聴衆に対して時間を多くかけて講演したい人は“D”を、多勢の人に短い時間で講演を希望する人は“S”を記入されるとよいでしょう。

講演申込みは、「〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1 東京天文台 中桐正夫」あてに**3月18日(金)**までに必着するよう規定の申込用紙を用いてお送り下さい。

申込用紙は、支部理事にまとめて送ってありますので希望者は返送料 50 円切手を同封の上、下記の理事にお申し出下さい。

記

- 北海道: 坂下志郎 〒060 札幌市北八条西5丁目
北海道大学理学部物理学教室
- 水 沢: 笹尾哲夫 〒023 水沢市星ガ丘町 2-12
緯度観測所
- 仙 台: 竹内 峯 〒980 仙台市荒巻字青葉
東北大学理学部天文学教室
- 東 京: 中桐正夫 〒181 三鷹市大沢 2-21-1
東京天文台
- 名古屋: 松本敏雄 〒464 名古屋市千種区不老町
名古屋大学理学部物理学教室
- 京 都: 加藤正二 〒606 京都市左京区北白川追分町
京都大学理学部宇宙物理学教室
- 中国・四国: 三沢邦彦 〒760 高松市幸町 1-1
香川大学教育学部天文学教室
- 九 州: 上西啓祐 〒860 熊本市黒髪 2-39-1
熊本大学理学部物理学教室

◇講演申込者で財政的理由により出張旅費の補助を希望される方は、支部理事に御相談の上、**3月18日**までに「東京天文台内日本天文学会理事長」あてに申し込んで下さい。なお 51 年度会費まで納入済みの方で、原則として連名の場合でもスピーカーであること、正式の給与をうけていない人(例えば大学院生など)に限ります。
◇講演申込の際次の諸点にも留意して下さい。

1. 申込書の注意事項を完全に守ること。
2. スピーカーを発表者の筆頭に書くこと。
3. ビラは禁止しますので、スライドを用意すること。

.....
掲 示 板 II
.....

三菱財団自然科学研究助成募集

上記について三菱財団より本会宛に募集要項が来ています。応募を希望される方は学会庶務理事に御連絡下さるか、個別に下記宛「三菱財団自然科学時成応募要項」を御請求下さい。

宛 先 財団法人 三菱財団
〒100 東京都千代田区丸の内 2-5-2
三菱ビルディング 15 階
Tel. 03-214-5754

助成の金額は総額約1億1千万円、1件2千万円以内、研究期間は原則として1年、応募締切は昭和 52 年 5 月 31 日。助成金贈呈は 10 月 6 日。

この助成金の趣旨は、自然科学の基礎分野における重要かつ独創的な研究を助成して、わが国基礎科学部門の一層の向上、発展を期待することにあるとしています。本年度は九分野を重点的に助成の対象としていますが、その他の分野における研究も勿論選考の対象から除外するものではないとなっております。また助成金の使途は制限されておらず、設備費・消耗品費・旅費・謝金等いずれの項目についても申込むことができます。九つの重点対象分野のうち多少とも天文学に関連して来そうなのは (1) 非線型現象の基礎的研究、(2) 無定形物質系の基礎的研究、(3) 極低温における物理現象とその応用に関する基礎的研究、(4) 化学及び物性分野における新しい着想・新測定方法による研究であります。

1976 年 12 月の太陽黒点 (g, f) (東京天文台)

1	0,	0	6	0,	0	11	1,	26	16	—,	—	21	1,	7	26	2,	11
2	0,	0	7	0,	0	12	1,	23	17	4,	9	22	—,	—	27	1,	9
3	—,	—	8	2,	12	13	1,	13	18	4,	9	23	1,	4	28	1,	11
4	0,	0	9	2,	14	14	2,	8	19	3,	6	24	—,	—	29	1,	8
5	0,	0	10	1,	25	15	3,	19	20	1,	4	25	—,	—	30	1,	21
(相対数月平均値: 16.3)															31	1,	11

昭和 52 年 2 月 20 日 印刷発行 定価 300 円	発行人 〒181 東京都三鷹市東京天文台内 印刷所 〒112 東京都文京区水道 2-7-5 発行所 〒181 東京都三鷹市東京天文台内 電話 武蔵野 31局 (0422-31) 1359	社団法人 日本天文学会 啓文堂 松本印刷 社団法人 日本天文学会 振替口座 東京 6-13595
--------------------------------------	--	---